



観光客で賑わう西ヶ原ぶどう園

この地が美しく生まれ変わる

来園します。

花の時期に合わせて、昨年から住民の手で赤そば花まつりが開催されるようになりました。昨年の期間中來場者は25日間で2万2千人。花をカメラに納め、散策を楽しむ人の姿がいたるところで見られました。花の新名所として少しずつ注目されています。

このほか村内にはぶどう狩りやいちご狩りなどが楽しめる体験施設があります。そのひとつ、西ヶ原ぶどう園では、直売ともぎとり体験を14軒の農家で協力して運営しています。レインカット方式という特殊な栽培方法で10種類7000本のぶどうの木を育て、シーズン中には1万3千人が

### 中川流 観光農業

JR飯田線伊那田島駅に近い広大なほ場は、初秋になると赤そばの花が一面に咲き誇り、帯は淡紅色に覆われます。赤そばの鮮やかな花の色は、空の青、周囲の緑と美しいコントラストをみせ、ふたつのアルプスを望む赤そば畑の傍らを電車がゆっくり走る様は風情たっぷりです。

ある富永朝和さん(柳沢)は、当初の目的を果たした現在、「観光」が次の目標だといいます。「これだけ評判になった以上、村民みんなで協力して継続を図り、いずれば村の観光として定着させたい」と夢を語ります。荒れていた農地が花で美しく生まれ変わり、多くの人が訪れ、賑わいが創出されたことで、新たな可能性が拓けてきたのです。



大島農園の出荷作業

レインカット方式で栽培されるぶどう(西ヶ原)



きっかけは、遊休荒廃地をなくしたいという地域住民の強い思いからでした。花まつり実行委員のスタッフで、赤そば栽培を推進した中心メンバーで



一面に咲いた赤そばの花(西ヶ原)



地元女性が元気に働く「いろりながわ亭」

現在の活動はパンの生産と販売、そして麦づくりです。作業は毎週火・土曜日で、村内3カ所のスーパーや施設で販売されています。

近年、地域づくりに女性の力は欠かせません。会社組織よりも地域や家庭に根ざした女性は、仕事と地域と家庭・自分を一体的に考えることができます。そして発想は、身の回りの日常生活面から生まれる傾向が強いのが特徴です。規模の成長を求めず、経済性の追求のみならず、地域がよくなることに貢献する姿勢は、生活バランスの感覚に優れた現実的といえるでしょう。

### 新しい価値を追求する 農業経営

大島農園は、有機無農薬の野菜づくりで経営の確立をめざし、真摯に有機農業と向き合いながら、消費者と顔の見えるやりとりを心がけています。「経営として確立させるには、技術、生産性、販売などあらゆる面でまだまだです。質はクリアできて量も確保していくには、合理化、効率化をもっ

と進めなければなりません。近在の有機農業生産者との協業も必要」と代表の大島太郎さん(中通)は課題を口にします。

同農園がめざすのは30年続く農業。息の長い活動の背景には、有機農業への絶対の信頼と、自ら農的暮らしを楽しみながら、消費者や地域の人々といっしょになつて元気になる農園にしたいとの思いがあります。

## 地域に描く夢

### 女性の力を 村づくりに

「田舎のお母さんたちの味いあるパン。姿は多少悪くても、質と味には自信があります」と代表の荒井登志子さん(小和田)はいます。

いろりながわ亭は地元女性が活躍するコミュニティレストラン。明るく元気に働く女性たちの声が店内に響き渡っています。中川産そば粉の手打ちそばや、コキビと日本蜜蜂のハチミツ入り五平餅などがこの一押しメニューです。いろりは村の特産品開発を進める過程で、生産・販売の拠点として平成18年に開業しました。「地元産を使う」「手づくりでこだわる」「素朴な田舎の味にこだわる」などが、運営上大切にしている点だといいます。



どんパンの会の作業風景。中川村産コシヒカリを使った米粉パン(左)が一番人気

